

学校だより

温故知新

恵那市立岩邑中学校

学校の教育目標

確かな学力 豊かな心 逞しい体

令和4年6月1日

『 明日は必ずやってくる 』

校長 丸山 成之

連休が明け、1年生の旭高原研修と3年生の修学旅行が終わりました。次は2年生の篠島研修です。タブレットを活用した授業にも取り組んでいて、学校生活は日々進行中です。何気なく過ごしている毎日かもしれませんが、そんな日常を少し振り返ってみましょう

目覚めると朝です。今日も学校があります。持ち物の確認をします。夜のうちに準備している人がほとんどでしょう。朝食をとり、体操服に着替え、家を出発します。いつもと同じように仲間が迎え入れてくれます。その日を振り返ったとき「優しい顔でいられたかな」「厳しい顔をしてしまったかな」「浮かぬ顔でいたかも」など思い出されるのかもしれない。

面白いもので、時間の流れは止まりません。毎日毎日同じように時を刻んでいきます。一見、同じことの繰り返しで、どんどん時間が過ぎていくように思えるのですが、しかし、足跡は着実に増え、自分たちの礎となり、歴史となります。年輪と言い換えることもできるでしょう。昨日まで知らなかったことを知るようになり、物事がわかってきます。それはできるようになったということです。できるようになることが、わかるということです。

わかってくと安心します。物事の道理とはそんなものです。安心できるとそこに自分の居場所ができ、ほっとします。空間がほっとできると幸せになります。気持ちが落ち着きます。すると、笑いの絶えない日常がやってきます。本音で語れるようになります。自分が自分でいられるようになります。明日の勇気がわいてきます。

何でもない一日が、実はかけがえのない一日だったりするのです。いつの間にか、自分の所属するコミュニティが価値のある集団に変わってきます。いろいろなことをもっと知りたいと思います。知れば知るほど、実はわからなくなること多いのですが、それが「生きる」ということなのかもしれません。

今日を大切にしましょう。そうすれば、明日はもっと楽しく過ごせるはずです。そのために何かに懸命に取り組みましょう。挨拶にこだわってみるのもいいかもしれません。あなたの笑顔が仲間の心に響きます。

そんな毎日がいちばん幸せなのだろうと思います。当たり前が当たり前のようやってくる。特別な行事がなくても、つまづくことがあっても、乗り越えようと仲間とともに進みましょう。必ず明日はやってきます。